

新										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	黒木 雅美		評価 の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		技術試験	30 %
				授業形態	演習		授業回数		30 時間	授業内課題
						15 回			受講態度	10 %
授業の概要	フィジカルアセスメントとして、問診・視診・触診・聴診・打診の基本技術やバイタルサイン測定と評価、呼吸音・心音・腸音の聴取方法について学ぶ。診療援助技術として、呼吸・循環を整える技術を学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。									
到達目標	フィジカルアセスメントを正確に実施する基礎的な方法を習得する ・健康な対象のバイタルサインを正しく測定しアセスメントできる ・健康な対象の生命の維持にかかわる臓器のフィジカルイグザミネーションを実施できる (原則的な視診の考え方、心音の聴取、呼吸音の聴取、腸蠕動音の聴取、対光反射の確認、打診の方法) ・健康な対象の体を動かすことにかかわるフィジカルイグザミネーションの方法を理解できる (MMT、ROM) ・呼吸・循環調整管理の方法を理解できる									
学習者への期待等	前期に履修している「人体の構造と機能」について復習をしておくこと									
回	授業計画			準備学習			担当			
1	【講義】フィジカルアセスメントとはバイタルサインについて						黒木 雅美			
2	【講義】フィジカルアセスメント(バイタルサインの観察・測定)			【事前】呼吸器、循環器の構造と機能の知識について復習する(小テストあり)(60分) 【事後】聴診器の取扱い方法 体温、呼吸、脈拍測定の正しい方法について復習練習(20分)			黒木 雅美			
3	【講義】フィジカルアセスメント(胸部 呼吸器)						黒木 雅美			
4	【講義】フィジカルアセスメント(胸部 循環器)						黒木 雅美			
5	バイタルサイン測定： 血圧計・体温計・聴診器の使い方						黒木 雅美 ほか3名			
6	バイタルサイン測定：血圧測定			【事前】血圧計の操作について(目盛の読み方、調節ネジの微調整の方法等) 体温、呼吸、脈拍、SPO ₂ 測定の方法 【事後】正しい測定方法の練習(30分)			黒木 雅美 ほか3名			
7	バイタルサイン測定：体温 脈拍 呼吸の測定						黒木 雅美 ほか3名			
8	バイタルサイン測定とアセスメント： 正確な測定の方法と一連の技術実施			【事前】シミュレーターを活用し、聴覚・触覚による正確な測定を練習する(60分)			黒木 雅美 ほか3名			
9	【講義】フィジカルアセスメント(腹部 感覚器)電法について			【事前】腹腔内臓器の構造と機能の知識・感覚器の構造と機能について教科書を読んでくる(30分)			黒木 雅美			
10	【講義】フィジカルアセスメント(運動器 脳神経系のアセスメント)			【事前】運動器、脳神経系の構造と機能について教科書を読んでくる(30分)			黒木 雅美			
11	胸部のフィジカルイグザミネーション						黒木 雅美 ほか3名			
12	腹部のフィジカルイグザミネーション 運動器 感覚器 脳神経系のアセスメント			【事前】フィジカルイグザミネーションを実施する際の知識について復習しておく(30分)			黒木 雅美 ほか3名			
13	身体計測の方法 異常な所見の理解 電法						黒木 雅美 ほか3名			
14	【講義】酸素療法 口腔・鼻腔内吸引 排痰法			【事前】呼吸の機能に関する知識について教科書の該当ページを読む(30分)			鈴木 祐子			
15	酸素療法の実践 口腔・鼻腔内吸引の実践			【事後】酸素取扱い時、鼻腔・口腔内吸引実施時の留意事項と根拠について確認する(30分)			鈴木 祐子 ほか3名			
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」有田清子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」有田清子他著、医学書院									
参考文献	「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス」守田美奈子監修、インターメディカ 「フィジカルアセスメントがみえる」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「はじめてのフィジカルアセスメント」横山美樹著、メヂカルフレンド社 「完全版 ビジュアル臨床看護技術」坂本すが監修、照林社 「フィジカルアセスメント ガイドブック 目と手と耳でここまでわかる」山内豊明著、医学書院 「やりのしおしのフィジカルアセスメント」山勢博彰編著、メディカ出版 「ナーシング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社									
備考	＊演習は、専任教員：門間京子、及川珠美、黒木雅美、非常勤講師：鈴木祐子が担当する。 ＊次の演習は2クラス編成で実施する。「バイタルサイン測定」5、6、7、8回、「正確なバイタルサイン測定の方法と一連の技術」13回、「酸素療法」15回 ＊講義開始時に人体の構造と機能に関する小テストを実施する。 ＊各技術項目の習得レベルは「卒業時の技術到達度」参照。 ＊授業内課題については授業内で総括しフィードバックする。 ＊基礎看護学実習Ⅱの履修要件として看護学原論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、看護過程論、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していることが必須である。									

旧										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	二口 尚美 黒木 雅美		評価 の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		技術試験	30 %
				授業形態	演習		授業回数		30 時間	授業内課題
						15 回			受講態度	10 %
授業の概要	フィジカルアセスメントとして、問診・視診・触診・聴診・打診の基本技術やバイタルサイン測定と評価、呼吸音・心音・腸音の聴取方法について学ぶ。診療援助技術として、呼吸・循環を整える技術を学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。									
到達目標	フィジカルアセスメントを正確に実施する基礎的な方法を習得する ・健康な対象のバイタルサインを正しく測定しアセスメントできる ・健康な対象の生命の維持にかかわる臓器のフィジカルイグザミネーションを実施できる (原則的な視診の考え方、心音の聴取、呼吸音の聴取、腸蠕動音の聴取、対光反射の確認、打診の方法) ・健康な対象の体を動かすことにかかわるフィジカルイグザミネーションの方法を理解できる (MMT、ROM) ・呼吸・循環調整管理の方法を理解できる									
学習者への期待等	前期に履修している「人体の構造と機能」について復習をしておくこと									
回	授業計画			準備学習			担当			
1	【講義】フィジカルアセスメントとはバイタルサインについて						二口 尚美			
2	【講義】フィジカルアセスメント(バイタルサインの観察・測定)			【事前】呼吸器、循環器の構造と機能の知識について復習する(小テストあり)(60分) 【事後】聴診器の取扱い方法 体温、呼吸、脈拍測定の正しい方法について復習練習(20分)			二口 尚美			
3	【講義】フィジカルアセスメント(胸部 呼吸器)						二口 尚美			
4	【講義】フィジカルアセスメント(胸部 循環器)						二口 尚美			
5	バイタルサイン測定： 血圧計・体温計・聴診器の使い方						二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
6	バイタルサイン測定：血圧測定			【事前】血圧計の操作について(目盛の読み方、調節ネジの微調整の方法等) 体温、呼吸、脈拍、SPO ₂ 測定の方法 【事後】正しい測定方法の練習(30分)			二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
7	バイタルサイン測定：体温 脈拍 呼吸の測定						二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
8	バイタルサイン測定とアセスメント： 正確な測定の方法と一連の技術実施			【事前】シミュレーターを活用し、聴覚・触覚による正確な測定を練習する(60分)			二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
9	【講義】フィジカルアセスメント(腹部 感覚器)電法について			【事前】腹腔内臓器の構造と機能の知識・感覚器の構造と機能について教科書を読んでくる(30分)			二口 尚美			
10	【講義】フィジカルアセスメント(運動器 脳神経系のアセスメント)			【事前】運動器、脳神経系の構造と機能について教科書を読んでくる(30分)			二口 尚美			
11	胸部のフィジカルイグザミネーション						二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
12	腹部のフィジカルイグザミネーション 運動器 感覚器 脳神経系のアセスメント			【事前】フィジカルイグザミネーションを実施する際の知識について復習しておく(30分)			二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
13	身体計測の方法 異常な所見の理解 電法						二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
14	【講義】酸素療法 口腔・鼻腔内吸引 排痰法			【事前】呼吸の機能に関する知識について教科書の該当ページを読む(30分)			二口 尚美			
15	酸素療法の実践 口腔・鼻腔内吸引の実践			【事後】酸素取扱い時、鼻腔・口腔内吸引実施時の留意事項と根拠について確認する(30分)			二口 尚美 黒木 雅美 ほか4名			
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」有田清子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」有田清子他著、医学書院									
参考文献	「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス」守田美奈子監修、インターメディカ 「フィジカルアセスメントがみえる」医療情報科学研究所編、メディックメディア 「はじめてのフィジカルアセスメント」横山美樹著、メヂカルフレンド社 「完全版 ビジュアル臨床看護技術」坂本すが監修、照林社 「フィジカルアセスメント ガイドブック 目と手と耳でここまでわかる」山内豊明著、医学書院 「やりのしおしのフィジカルアセスメント」山勢博彰編著、メディカ出版 「ナーシング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社									
備考	＊演習は、専任教員：門間京子、及川珠美、二口尚美、黒木雅美他1名、非常勤講師：鈴木祐子が担当する。 ＊次の演習は2クラス編成で実施する。「バイタルサイン測定」5、6、7、8回、「正確なバイタルサイン測定の方法と一連の技術」13回、「酸素療法」15回 ＊講義開始時に人体の構造と機能に関する小テストを実施する。 ＊各技術項目の習得レベルは「卒業時の技術到達度」参照。 ＊授業内課題については授業内で総括しフィードバックする。 ＊基礎看護学実習Ⅱの履修要件として看護学原論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、看護過程論、基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していることが必須である。									

新

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	基礎看護技術Ⅳ					単位 認定者	及川 珠美		評価の 方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	技術試験		20 %	
					授業形態		演習	授業時間数		60 時間	授業内課題
						授業回数	30 回			受講態度	10 %
授業の概要	診療援助技術として、与薬の技術、創傷管理技術、排泄異常時の援助技術について学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力をつける。										
到達目標	1. 診療の補助技術としての感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術に関する基本的知識について述べるができる。 2. 感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術の原理・原則を理解し、正確な方法で安全に実施することができる。										
学修者への期待等	・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容を基盤として、診療補助のための看護技術を学ぶため、基礎看護学だけではなく、人体の構造と機能、病態治療学、看護薬理学など様々な専門支持科目の知識を必要とする。演習の前には関連する科目の知識も含めて学習し、理解した上で演習にのぞんでほしい。 ・演習の際の服装や事前の準備、留意事項等は授業内で連絡をする。効率よく安全な学習のために、演習におけるルールを守り、主体的に学習すること。										
回	授業計画					準備学習			担当		
1	【講義】診療補助のための看護技術を学ぶにあたって感染防止の技術(無菌操作、医療廃棄物の管理)					【事前】シラバスおよび教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
2	感染防止の技術演習(滅菌手袋の装着)					【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか3名		
3	感染防止の技術演習(滅菌物の取り扱い)					【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか3名		
4	【講義】創傷管理の技術(創処置・包帯法)					【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
5	【講義】創傷管理の技術(褥瘡予防と処置)								及川 珠美		
6	創傷管理の技術演習(創傷の観察と創処置、褥創予防のケア)					【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか3名		
7	創傷管理の技術演習(包帯法)					【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか3名		
8	【講義】与薬の技術(与薬の種類・原則、経口薬)					【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
9	【講義】与薬の技術(外用薬)								及川 珠美		
10	【講義】与薬の技術(注射器の取り扱い、薬液の準備)					【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
11	与薬の技術演習(注射器の取り扱い)					【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか3名		
12	与薬の技術演習(注射薬の準備)					【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか3名		

旧

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	基礎看護技術Ⅳ					単位 認定者	及川 珠美		評価の 方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	技術試験		20 %	
					授業形態		演習	授業時間数		60 時間	授業内課題
						授業回数	30 回			受講態度	10 %
授業の概要	診療援助技術として、与薬の技術、創傷管理技術、排泄異常時の援助技術について学ぶ。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解して実施できる能力を身につける。										
到達目標	1. 診療の補助技術としての感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術に関する基本的知識について述べるができる。 2. 感染防止の技術、与薬の技術、創傷管理技術、症状・生体管理技術、排泄異常時の援助技術の原理・原則を理解し、正確な方法で安全に実施することができる。										
学修者への期待等	・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容を基盤として、診療補助のための看護技術を学ぶため、基礎看護学だけではなく、人体の構造と機能、病態治療学、看護薬理学など様々な専門支持科目の知識を必要とする。演習の前には関連する科目の知識も含めて学習し、理解した上で演習にのぞんでほしい。 ・演習の際の服装や事前の準備、留意事項等は授業内で連絡をする。効率よく安全な学習のために、演習におけるルールを守り、主体的に学習すること。										
回	授業計画					準備学習			担当		
1	【講義】診療補助のための看護技術を学ぶにあたって感染防止の技術(無菌操作、医療廃棄物の管理)					【事前】シラバスおよび教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
2	感染防止の技術演習(滅菌手袋の装着)					【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか5名		
3	感染防止の技術演習(滅菌物の取り扱い)					【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか5名		
4	【講義】創傷管理の技術(創処置・包帯法)					【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
5	【講義】創傷管理の技術(褥瘡予防と処置)								及川 珠美		
6	創傷管理の技術演習(創傷の観察と創処置、褥創予防のケア)					【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか5名		
7	創傷管理の技術演習(包帯法)					【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか5名		
8	【講義】与薬の技術(与薬の種類・原則、経口薬)					【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
9	【講義】与薬の技術(外用薬)								及川 珠美		
10	【講義】与薬の技術(注射器の取り扱い、薬液の準備)					【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと(概ね1時間程度)			及川 珠美		
11	与薬の技術演習(注射器の取り扱い)					【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか5名		
12	与薬の技術演習(注射薬の準備)					【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出(概ね1時間程度)			及川 珠美 ほか5名		

回	授業計画	準備学習	担当
13	【講義】与薬の技術（筋肉内注射、皮下注射、皮内注射）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
14	与薬の技術演習（注射の準備）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
15	与薬の技術演習（注射の実際）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
16	【講義】与薬の技術（静脈内注射）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
17	与薬の技術演習（静脈内注射の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
18	与薬の技術演習（点滴静脈内注射の実際）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
19	与薬の技術演習（点滴静脈内注射の観察と輸液管理）		及川 珠美 ほか3名
20	【講義】症状・生体管理技術（生体検査・検査の介助）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
21	【講義】症状・生体管理技術（検体検査）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
22	【講義】症状・生体管理技術（採血）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
23	症状・生体管理技術（静脈採血の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
24	症状・生体管理技術（検体取り扱い）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
25	【講義】与薬の技術（輸血療法の準備・管理）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
26	【講義】排泄の援助技術（排便異常）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
27	排泄の援助技術演習（洗腸、滴便の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度） 【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか3名
28	【講義】排泄の援助技術（排尿異常）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	黒木 雅美
29	排泄の援助技術演習（持続的導尿の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	黒木 雅美 ほか3名
30	排泄の援助技術演習（持続的導尿時の観察・管理）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	黒木 雅美 ほか3名
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」有田清子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」有田清子他著、医学書院		
参考文献	「ナーシング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社（事前・事後学習に視聴覚教材として活用する）。その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する		
備考	*演習は、専任教員：門間京子、及川珠美、黒木雅美、非常勤講師：鈴木祐子が担当する。 *次の演習は2クラス編成で実施する。 注射（14回・15回）、採血（23回、24回） *各技術項目の習得レベルは、後日配布する「卒業時の看護技術到達度」参照。 *授業内課題については、授業内で総括しフィードバックする。 *基礎看護学実習Ⅱの履修要件として看護学原論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることが必須である。		

回	授業計画	準備学習	担当
13	【講義】与薬の技術（筋肉内注射、皮下注射、皮内注射）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
14	与薬の技術演習（注射の準備）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
15	与薬の技術演習（注射の実際）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
16	【講義】与薬の技術（静脈内注射）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
17	与薬の技術演習（静脈内注射の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
18	与薬の技術演習（点滴静脈内注射の実際）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
19	与薬の技術演習（点滴静脈内注射の観察と輸液管理）		及川 珠美 ほか5名
20	【講義】症状・生体管理技術（生体検査・検査の介助）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
21	【講義】症状・生体管理技術（検体検査）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
22	【講義】症状・生体管理技術（採血）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
23	症状・生体管理技術（静脈採血の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
24	症状・生体管理技術（検体取り扱い）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
25	【講義】与薬の技術（輸血療法の準備・管理）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
26	【講義】排泄の援助技術（排便異常）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	及川 珠美
27	排泄の援助技術演習（洗腸、滴便の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度） 【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	及川 珠美 ほか5名
28	【講義】排泄の援助技術（排尿異常）	【事前】教科書の該当するページを読んでおくこと（概ね1時間程度）	二口 尚美
29	排泄の援助技術演習（持続的導尿の実際）	【事前】演習に向けて方法や根拠となる知識について確認をしておく（概ね1時間程度）	二口 尚美 ほか5名
30	排泄の援助技術演習（持続的導尿時の観察・管理）	【事後】演習の振り返りレポートの作成と提出（概ね1時間程度）	二口 尚美 ほか5名
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」有田清子他著、医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」有田清子他著、医学書院		
参考文献	「ナーシング・スキル日本版」エルゼビア・ジャパン株式会社（事前・事後学習に視聴覚教材として活用する）。その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する		
備考	*演習は、専任教員：門間京子、及川珠美、二口尚美、黒木雅美他1名、非常勤講師：鈴木祐子が担当する。 *次の演習は2クラス編成で実施する。 注射（14回・15回）、採血（23回、24回） *各技術項目の習得レベルは、後日配布する「卒業時の看護技術到達度」参照。 *授業内課題については、授業内で総括しフィードバックする。 *基礎看護学実習Ⅱの履修要件として看護学原論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程論、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることが必須である。		

新									
学習成果	1	2	3	4	5				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力				
	●	●	●	●	●				
科目名	老年看護学援助論Ⅱ				単位 認定者	菅原 尚美		試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	レポート等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数	45 時間	授業内課題等
							授業回数	23 回	
授業の概要	高齢者は疾患・症候等において、非定型的な症状を呈する。また、治療、検査そのものが、高齢者にとっては心身へのダメージとなり、二次的に症候を伴うことも珍しくない。したがって健康を逸脱した高齢者に対する看護の知識・技術を習得することは、高齢社会の日本の医療に服するうえで大変重要である。また、人生の終焉に向かう高齢者への看護、高齢者の終末期を看とることの意味とその時の在り方について習得する。								
到達目標	1. 健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助方法が理解できる 2. 紙上事例を用いたロールプレイ演習を通して、高齢者の健康逸脱や加齢に伴う変化をアセスメントし、療養生活に必要な援助計画を立案し実施することができる 3. 紙上事例を通して高齢者の特徴的な看護過程の展開ができる								
学修者への期待等	高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を理解することは、健康を逸脱した高齢者に対する看護をしていくうえで重要である。授業を通して高齢者の権利と尊厳を守り、終焉に向かう高齢者への看護、高齢者の終末期を看とることの意味を考えてほしい。また高齢者の生活の視点に基盤を置いて支援する看護の役割について考えてほしい。								
回	授業計画			準備学習			担当名		
1	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—皮膚とその付属器・視聴覚とそのほかの感覚—			【事前】 第4章「皮膚とその付属器」、「視聴覚とそのほかの感覚」を読む(1時間)			菅原 尚美		
2	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—循環系・呼吸器系—			【事前】 第4章「循環系」、「呼吸器系」、第6章「インフルエンザ」、「肺炎」を読む(1時間)			菅原 尚美		
3	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—消化器系・ホルモンの分泌・泌尿生殖器—			【事前】 第4章「消化器系」、「ホルモンの分泌」、「泌尿生殖器」を読む(1時間)			菅原 尚美		
4	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—運動系—			【事前】 第4章「運動系」、第6章「パーキンソン病・パーキンソン症候群」、「骨粗鬆症」、「骨折」を読む(1時間)			菅原 尚美		
5	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—日常生活を支える基本的動作・転倒転落・廃用症候群—			【事前】 第5章「日常生活を支える基本的活動」を読む(1時間)			菅原 尚美		
6	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—食事・食生活・低栄養・摂食・嚥下・脱水—			【事前】 第5章「食事・食生活」、第6章「脱水」を読む(1時間)			菅原 尚美		
7	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—排泄・尿失禁・便秘・下痢—			【事前】 第5章「排泄」を読む(1時間)			菅原 尚美		
8	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—清潔—			【事前】 第5章「清潔」、第6章「褥瘡・スキンケア」を読む(1時間)			菅原 尚美		
9	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—活動と休息・睡眠・コミュニケーション・社会参加—			【事前】 第5章「生活リズム」、「コミュニケーション」、「社会参加」を読む(1時間)			菅原 尚美		
10	【講義】 治療を必要とする高齢者の看護—認知機能障害のある高齢者の看護—うつ・せん妄・認知症—			【事前】 第7章「認知機能障害のある高齢者の看護」を読む(1時間)			菅原 尚美		
11	認知症の看護			【事前】 新聞、ニュースから認知症に関するトピックスを探す(1時間)			菅原 尚美		
12	【講義】 治療を必要とする高齢者の看護—検査・薬物療法・手術を受ける高齢者の看護—			【事前】 第7章「検査」、「薬物療法」、「手術」を受ける高齢者の看護を読む(1時間)			菅原 尚美		
13	【講義】 治療を必要とする高齢者の看護—リハビリテーションを受ける高齢者の看護・入院治療を受ける高齢者の看護—			【事前】 第7章「リハビリテーション」、「入院治療」を受ける高齢者の看護を読む(1時間)			菅原 尚美		

旧									
学習成果	1	2	3	4	5				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力				
	●	●	●	●	●				
科目名	老年看護学援助論Ⅱ				単位 認定者	菅原 尚美		試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	レポート等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数	45 時間	授業内課題等
							授業回数	23 回	
授業の概要	高齢者は疾患・症候等において、非定型的な症状を呈する。また、治療、検査そのものが、高齢者にとっては心身へのダメージとなり、二次的に症候を伴うことも珍しくない。したがって健康を逸脱した高齢者に対する看護の知識・技術を習得することは、高齢社会の日本の医療に服するうえで大変重要である。また、人生の終焉に向かう高齢者への看護、高齢者の終末期を看とることの意味とその時の在り方について習得する。								
到達目標	1. 健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助方法が理解できる 2. 紙上事例を用いたロールプレイ演習を通して、高齢者の健康逸脱や加齢に伴う変化をアセスメントし、療養生活に必要な援助計画を立案し実施することができる 3. 紙上事例を通して高齢者の特徴的な看護過程の展開ができる								
学修者への期待等	高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を理解することは、健康を逸脱した高齢者に対する看護をしていくうえで重要である。授業を通して高齢者の権利と尊厳を守り、終焉に向かう高齢者への看護、高齢者の終末期を看とることの意味を考えてほしい。また高齢者の生活の視点に基盤を置いて支援する看護の役割について考えてほしい。								
回	授業計画			準備学習			担当名		
1	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—皮膚とその付属器・視聴覚とそのほかの感覚—			【事前】 第4章「皮膚とその付属器」、「視聴覚とそのほかの感覚」を読む(1時間)			菅原 尚美		
2	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—循環系・呼吸器系—			【事前】 第4章「循環系」、「呼吸器系」、第6章「インフルエンザ」、「肺炎」を読む(1時間)			菅原 尚美		
3	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—消化器系・ホルモンの分泌・泌尿生殖器—			【事前】 第4章「消化器系」、「ホルモンの分泌」、「泌尿生殖器」を読む(1時間)			菅原 尚美		
4	【講義】 身体の加齢変化とアセスメント—運動系—			【事前】 第4章「運動系」、第6章「パーキンソン病・パーキンソン症候群」、「骨粗鬆症」、「骨折」を読む(1時間)			菅原 尚美		
5	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—日常生活を支える基本的動作・転倒転落・廃用症候群—			【事前】 第5章「日常生活を支える基本的活動」を読む(1時間)			菅原 尚美		
6	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—食事・食生活・低栄養・摂食・嚥下・脱水—			【事前】 第5章「食事・食生活」、第6章「脱水」を読む(1時間)			菅原 尚美		
7	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—排泄・尿失禁・便秘・下痢—			【事前】 第5章「排泄」を読む(1時間)			菅原 尚美		
8	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—清潔—			【事前】 第5章「清潔」、第6章「褥瘡・スキンケア」を読む(1時間)			菅原 尚美		
9	【講義】 高齢者の生活機能を整える看護—活動と休息・睡眠・コミュニケーション・社会参加—			【事前】 第5章「生活リズム」、「コミュニケーション」、「社会参加」を読む(1時間)			菅原 尚美		
10	【講義】 治療を必要とする高齢者の看護—認知機能障害のある高齢者の看護—うつ・せん妄・認知症—			【事前】 第7章「認知機能障害のある高齢者の看護」を読む(1時間)			菅原 尚美		
11	認知症の看護			【事前】 新聞、ニュースから認知症に関するトピックスを探す(1時間)			菅原 尚美		
12	【講義】 治療を必要とする高齢者の看護—検査・薬物療法・手術を受ける高齢者の看護—			【事前】 第7章「検査」、「薬物療法」、「手術」を受ける高齢者の看護を読む(1時間)			菅原 尚美		
13	【講義】 治療を必要とする高齢者の看護—リハビリテーションを受ける高齢者の看護・入院治療を受ける高齢者の看護—			【事前】 第7章「リハビリテーション」、「入院治療」を受ける高齢者の看護を読む(1時間)			菅原 尚美		

回	授業計画	準備学習	担当名
14	エンドオブライフケア	【事前】第8章エンドオブライフケアを読む(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
15	INTO AGING	【事前】エンドオブライフケアに関する本を読む(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
16	老年期の看護過程の視点—アセスメント	【事後】看護過程のアセスメントまで整理(3時間)	桑田 恵美子 山本 和江
17	老年期の看護過程の視点—看護問題の抽出	【事後】看護過程の看護問題まで整理(3時間)	桑田 恵美子 山本 和江
18	老年期の看護過程の視点—看護計画の立案	【事後】看護過程の計画まで整理(3時間)	桑田 恵美子 山本 和江
19	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—紙上事例の展開—	【事前】看護過程の演習を振り返る	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
20	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—移動・移乗—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
21	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—食事・食生活—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
22	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—排泄—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
23	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—清潔—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 山本 和江
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子他編、医学書院 「カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術」大塚眞理子編著、医歯薬出版 「国民衛生の動向 2016/2017」厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会 ※1年次購入済み		
参考文献	「手技と事例で学ぶ 実践! 高齢者のフィジカルアセスメント—老化を理解して、異常を見逃さない!」角濱春美著、メディカ出版 「これだけは知っておきたい高齢者看護学」工藤綾子著、PILAR PRESS 「2018年要点がわかる出題傾向がみえる老年看護学(看護師国家試験対策)」吉村雅世著、PILAR PRESS		
備考	テキストの「老年看護学」の授業に該当する箇所(準備学習に記載)を読んで臨む。また、日ごろから高齢者に関する様々なトピックスに関心を寄せて欲しい。		

回	授業計画	準備学習	担当名
14	エンドオブライフケア	【事前】第8章エンドオブライフケアを読む(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
15	INTO AGING	【事前】エンドオブライフケアに関する本を読む(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
16	老年期の看護過程の視点—アセスメント	【事後】看護過程のアセスメントまで整理(3時間)	桑田 恵美子 専任教員
17	老年期の看護過程の視点—看護問題の抽出	【事後】看護過程の看護問題まで整理(3時間)	桑田 恵美子 専任教員
18	老年期の看護過程の視点—看護計画の立案	【事後】看護過程の計画まで整理(3時間)	桑田 恵美子 専任教員
19	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—紙上事例の展開—	【事前】看護過程の演習を振り返る	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
20	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—移動・移乗—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
21	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—食事・食生活—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
22	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—排泄—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
23	ロールプレイで学ぶ”健康逸脱のある高齢者の療養生活を支える援助”—清潔—	【事前】ロールプレイのためのグループ演習(1時間)	菅原 尚美 桑田 恵美子 専任教員
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子他編、医学書院 「カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術」大塚眞理子編著、医歯薬出版 「国民衛生の動向 2016/2017」厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会 ※1年次購入済み		
参考文献	「手技と事例で学ぶ 実践! 高齢者のフィジカルアセスメント—老化を理解して、異常を見逃さない!」角濱春美著、メディカ出版 「これだけは知っておきたい高齢者看護学」工藤綾子著、PILAR PRESS 「2018年要点がわかる出題傾向がみえる老年看護学(看護師国家試験対策)」吉村雅世著、PILAR PRESS		
備考	テキストの「老年看護学」の授業に該当する箇所(準備学習に記載)を読んで臨む。また、日ごろから高齢者に関する様々なトピックスに関心を寄せて欲しい。		

新										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	精神看護学援助論Ⅱ					単位 認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題	30 %
					授業形態		演習		授業時間数	45 時間
						授業回数	23 回			
授業の概要	精神看護を実践するための知識と技術を学ぶことを目的とする。具体的には精神科における治療と看護、精神科リハビリテーション、精神保健福祉活動を学習し理解を深める。対象者へのアプローチとしては、心理学的アプローチ及び治療的コミュニケーションについて学ぶ。また、これらの学習を通して精神科におけるアドボカシーについて理解を深める。									
到達目標	精神的健康問題を持つ人の様々な問題を理解し、その援助方法について学ぶことにより、精神看護の基礎的実践ができるようになる。									
学修者への 期待等	精神看護学援助論Ⅱでは精神障害(疾患)とそのケアの実践について学習します。精神科看護の対象者を1人の人間として身体、心理、社会・スピリチュアルという全人的視点から捉えられるようになることを期待します。									
回	授業計画					準備学習			担当	
1	【講義】精神看護における対象の理解					事前学習：テキスト14～20頁、132～142頁に目を通しておく。(約30分～1時間)			阿部 幹佳	
2	【講義】精神保健活動とリハビリテーション					事前学習：テキスト192～201頁に目を通してしておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
3	地域精神保健活動の実際 校外活動(宮城県精神保健福祉大会に参加)					事前学習：地域精神保健活動にはどんなものがあるのか調べておく。テキスト202～215頁に目を通しておく。(約30分)			阿部 幹佳 長橋美榮子 二口 尚美	
4	地域精神保健活動の体験とまとめ 校外活動(宮城県精神保健福祉大会に参加)					精神保健福祉大会参加後にレポートを提出する。			阿部 幹佳 長橋美榮子 二口 尚美	
5	【講義】治療的かわりについて ～精神看護におけるコミュニケーション					事前学習：テキスト114～163頁に目を通してしておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
6	【講義】精神障害と看護の実際 (1)統合失調症患者の看護					事前学習：テキスト25～29、230～237頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
7	精神障害と看護の実際 (2)ケーススタディ					事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間)			阿部 幹佳 長橋美榮子	
8	【講義】精神障害と看護の実際 (3)うつ病患者の看護					事前学習：テキスト30～37、242～245頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
9	精神障害と看護の実際 (4)ケーススタディ					事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間)			阿部 幹佳 長橋美榮子	
10	【講義】精神障害と看護の実際 (5)アルコール依存症患者の看護					事前学習：テキスト68～73頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	

旧										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	精神看護学援助論Ⅱ					単位 認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	授業内課題	30 %
					授業形態		演習		授業時間数	45 時間
						授業回数	23 回			
授業の概要	精神看護を実践するための知識と技術を学ぶことを目的とする。具体的には精神科における治療と看護、精神科リハビリテーション、精神保健福祉活動を学習し理解を深める。対象者へのアプローチとしては、心理学的アプローチ及び治療的コミュニケーションについて学ぶ。また、これらの学習を通して精神科におけるアドボカシーについて理解を深める。									
到達目標	精神的健康問題を持つ人の様々な問題を理解し、その援助方法について学ぶことにより、精神看護の基礎的実践ができるようになる。									
学修者への 期待等	精神看護学援助論Ⅱでは精神障害(疾患)とそのケアの実践について学習します。精神科看護の対象者を1人の人間として身体、心理、社会・スピリチュアルという全人的視点から捉えられるようになることを期待します。									
回	授業計画					準備学習			担当	
1	【講義】精神看護における対象の理解					事前学習：テキスト14～20頁、132～142頁に目を通しておく。(約30分～1時間)			阿部 幹佳	
2	【講義】精神保健活動とリハビリテーション					事前学習：テキスト192～201頁に目を通してしておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
3	地域精神保健活動の実際 校外活動(宮城県精神保健福祉大会に参加)					事前学習：地域精神保健活動にはどんなものがあるのか調べておく。テキスト202～215頁に目を通しておく。(約30分)			阿部 幹佳 長橋美榮子	
4	地域精神保健活動の体験とまとめ 校外活動(宮城県精神保健福祉大会に参加)					精神保健福祉大会参加後にレポートを提出する。			阿部 幹佳 長橋美榮子	
5	【講義】治療的かわりについて ～精神看護におけるコミュニケーション					事前学習：テキスト114～163頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
6	【講義】精神障害と看護の実際 (1)統合失調症患者の看護					事前学習：テキスト25～29、230～237頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
7	精神障害と看護の実際 (2)ケーススタディ					事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間)			阿部 幹佳 長橋美榮子	
8	【講義】精神障害と看護の実際 (3)うつ病患者の看護					事前学習：テキスト30～37、242～245頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	
9	精神障害と看護の実際 (4)ケーススタディ					事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間)			阿部 幹佳 長橋美榮子	
10	【講義】精神障害と看護の実際 (5)アルコール依存症患者の看護					事前学習：テキスト68～73頁に目を通しておく。(約1時間)			阿部 幹佳	

回	授業計画	準備学習
11	精神障害と看護の実際 (6) ケーススタディ	事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子
12	【講義】精神障害と看護の実際 (7) 神経症性障害等の看護	事前学習：テキスト31～53、246～260頁に目を通しておく。(約1時間) 阿部 幹佳
13	精神障害と看護の実際 (8) ケーススタディ	事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子
14	【講義】精神障害と看護の実際 (9) 発達障害のある子どもの理解	事前学習：発達障害について調べてくる(約1時間) 長橋美栄子 星 仁美
15	精神障害と看護の実際 (10) 発達障害のある子どもの支援	長橋美栄子 星 仁美
16	【講義】東日本大震災における心のケア活動	事前学習：災害看護の復習をして臨む(約30分) 長橋美栄子 岡崎 茂
17	【講義】看護の倫理と人権擁護 (精神医療におけるアドボカシーの必要性)	事前学習：精神医療におけるアドボカシーの必要性とは何かを調べておく(約1時間) 阿部 幹佳
18	精神保健福祉サービス制度(体験学習)	障害者総合支援法について事前に復習して臨む(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 二口 尚美
19	精神保健福祉サービスの実際(体験学習)	学習のまとめのレポートを提出する 阿部 幹佳 長橋美栄子 二口 尚美
20	精神科看護実習に向けて (1) 精神科の看護実習とは	事前学習：テキスト262～269まで読んでおく。精神実習においてなぜ自己理解と他者理解が必要なのか考えてみる(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 二口 尚美 煤孫 久子
21	精神科看護実習に向けて (2) 記録・カンファレンスの意義	事前学習：テキスト269～277頁を読んでおく(約30分) 阿部 幹佳 長橋美栄子 二口 尚美 煤孫 久子
22	精神科看護実習に向けて (3) 看護場面の再構成(プロセスレコード)	事前学習：日常生活の対人関係で自分が振り返りたい場面を考えてくる。(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 二口 尚美 煤孫 久子
23	精神科看護実習に向けて (4) 情報収集とアセスメント	事前学習：精神科実習における情報収集とアセスメントについて配布資料に目を通してくる(約1時間) 事後学習：講義で学んだことを復習する(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 二口 尚美 煤孫 久子
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1): 情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編、MCメディア出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2): 精神障害と看護の実際」出口禎子編、MCメディア出版	
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研 「困難事例に学ぶ精神科看護技術」井之頭病院看護部編、中央法規	
備考	授業内課題は返却してフィードバックを行う。講義資料として印刷物等を適宜配布する。	

回	授業計画	準備学習
11	精神障害と看護の実際 (6) ケーススタディ	事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子
12	【講義】精神障害と看護の実際 (7) 神経症性障害等の看護	事前学習：テキスト31～53、246～260頁に目を通しておく。(約1時間) 阿部 幹佳
13	精神障害と看護の実際 (8) ケーススタディ	事後学習：ケーススタディで学んだことを復習する。(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子
14	【講義】精神障害と看護の実際 (9) 発達障害のある子どもの理解	事前学習：発達障害について調べてくる(約1時間) 長橋美栄子 星 仁美
15	精神障害と看護の実際 (10) 発達障害のある子どもの支援	長橋美栄子 星 仁美
16	【講義】東日本大震災における心のケア活動	事前学習：災害看護の復習をして臨む(約30分) 長橋美栄子 岡崎 茂
17	【講義】看護の倫理と人権擁護 (精神医療におけるアドボカシーの必要性)	事前学習：精神医療におけるアドボカシーの必要性とは何かを調べておく(約1時間) 阿部 幹佳
18	精神保健福祉サービス制度(体験学習)	障害者総合支援法について事前に復習して臨む(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子
19	精神保健福祉サービスの実際(体験学習)	学習のまとめのレポートを提出する 阿部 幹佳 長橋美栄子
20	精神科看護実習に向けて (1) 精神科の看護実習とは	事前学習：テキスト262～269まで読んでおく。精神実習においてなぜ自己理解と他者理解が必要なのか考えてみる(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 煤孫 久子
21	精神科看護実習に向けて (2) 記録・カンファレンスの意義	事前学習：テキスト269～277頁を読んでおく(約30分) 阿部 幹佳 長橋美栄子 煤孫 久子
22	精神科看護実習に向けて (3) 看護場面の再構成(プロセスレコード)	事前学習：日常生活の対人関係で自分が振り返りたい場面を考えてくる。(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 煤孫 久子
23	精神科看護実習に向けて (4) 情報収集とアセスメント	事前学習：精神科実習における情報収集とアセスメントについて配布資料に目を通してくる(約1時間) 事後学習：講義で学んだことを復習する(約1時間) 阿部 幹佳 長橋美栄子 煤孫 久子
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1): 情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編、MCメディア出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2): 精神障害と看護の実際」出口禎子編、MCメディア出版	
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研 「困難事例に学ぶ精神科看護技術」井之頭病院看護部編、中央法規	
備考	授業内課題は返却してフィードバックを行う。講義資料として印刷物等を適宜配布する。	

新											
学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	老年看護学実習					単位 認定者	桑田 恵美子			実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	集中	単位数	3 単位	評価の 方法			
							授業時間数		120 時間		
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	疾病予防から、健康を逸脱した状態にいたるまで、様々な健康の段階にある高齢者を対象として、医療福祉の連携と実際、および老年看護について実践から学ぶ。										
学修者への期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生きている。生病死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きていく人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしたい。										
授業計画											
I. 実習期間：平成30年5月7日（月）～11月9日（金）											
II. 実習施設 JR仙台病院 公立黒川病院 仙台市立病院 仙山西多賀病院 東北医科薬科大学若林病院 JCHO仙台南病院 JCHO仙台南病院介護老人保健施設											
III. 実習目的 1. 既習の知識・技術を用いて高齢者の看護を実践する基礎的な能力を養うとともに自己の看護観を発展させる 2. 施設で療養生活を送る高齢者とその家族がもつ健康問題を理解するとともに望む生活に近けるための支援を											
IV. 実習目標 【病棟実習】 1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化が理解できる 2. 老年期の対象の看護過程の展開を通して、科学的・個別的な看護を実践できる 3. 看護の対象や関わりあう人々と建設的な対人関係を築く体験から、専門職業人としての態度を習得できる 4. 実習を通して、高齢者を取り巻く保健医療福祉分野における看護職ならびに関連職種との役割と連携・協働についてわかる 5. 高齢者の看護実践を通して、自己の看護観を発展させる											
【施設実習】 1. 施設の目的・理念、機能、構造、事業概要、災害時の対応が理解できる 2. 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる 3. 施設における療養生活の場に必要看護が理解できる 4. 施設における関連職種の役割、協働・連携について理解できる 5. 施設における家族や地域の関係者との協働・連携について理解できる											
V. 実習計画 1. 学内実習 ① 実習全体オリエンテーション ② 看護過程展開 ③ 介護老人保健施設実習に向けて特別講義 ④ 各サイクル実習終了後、まとめの会を開催する（日程については後日指示する） 2. 臨地実習 介護老人保健施設実習 ……3日間 病棟実習 ……7日間											
教科書	「看護学テキストNiCE 老年看護学概論 改訂第2版」正木治恵・真田弘美編、南江堂 「看護学テキストNiCE 老年看護学技術 改訂第2版」正木治恵・真田弘美編、南江堂 「国民衛生の動向 2015/2016」厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会 ※1年次購入済み										
参考文献	「系統看護学講座 成人看護学1～11」（病態治療学I～IVの教科書） 「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子他編、医学書院 「手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント」MCメディカ出版 「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術」大塚眞理子編著 医歯薬出版 「利用者の思いを映すケアプランの事例集」福富雅城 編著 中央法規										
備考	担当者 専任教員：桑田恵美子、菅原尚美、 山本和江 非常勤講師：望月律子、他1名										

旧											
学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	老年看護学実習					単位 認定者	桑田 恵美子			実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	集中	単位数	3 単位	評価の 方法			
							授業時間数		120 時間		
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	疾病予防から、健康を逸脱した状態にいたるまで、様々な健康の段階にある高齢者を対象として、医療福祉の連携と実際、および老年看護について実践から学ぶ。										
学修者への期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生きている。生病死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きていく人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしたい。										
授業計画											
I. 実習期間：平成30年5月7日（月）～11月9日（金）											
II. 実習施設 JR仙台病院 公立黒川病院 仙台市立病院 仙山西多賀病院 東北医科薬科大学若林病院 JCHO仙台南病院 JCHO仙台南病院介護老人保健施設											
III. 実習目的 1. 既習の知識・技術を用いて高齢者の看護を実践する基礎的な能力を養うとともに自己の看護観を発展させる 2. 施設で療養生活を送る高齢者とその家族がもつ健康問題を理解するとともに望む生活に近けるための支援を											
IV. 実習目標 【病棟実習】 1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化が理解できる 2. 老年期の対象の看護過程の展開を通して、科学的・個別的な看護を実践できる 3. 看護の対象や関わりあう人々と建設的な対人関係を築く体験から、専門職業人としての態度を習得できる 4. 実習を通して、高齢者を取り巻く保健医療福祉分野における看護職ならびに関連職種との役割と連携・協働についてわかる 5. 高齢者の看護実践を通して、自己の看護観を発展させる											
【施設実習】 1. 施設の目的・理念、機能、構造、事業概要、災害時の対応が理解できる 2. 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる 3. 施設における療養生活の場に必要看護が理解できる 4. 施設における関連職種の役割、協働・連携について理解できる 5. 施設における家族や地域の関係者との協働・連携について理解できる											
V. 実習計画 1. 学内実習 ① 実習全体オリエンテーション ② 看護過程展開 ③ 介護老人保健施設実習に向けて特別講義 ④ 各サイクル実習終了後、まとめの会を開催する（日程については後日指示する） 2. 臨地実習 介護老人保健施設実習 ……3日間 病棟実習 ……7日間											
教科書	「看護学テキストNiCE 老年看護学概論 改訂第2版」正木治恵・真田弘美編、南江堂 「看護学テキストNiCE 老年看護学技術 改訂第2版」正木治恵・真田弘美編、南江堂 「国民衛生の動向 2015/2016」厚生労働統計協会著、厚生労働統計協会 ※1年次購入済み										
参考文献	「系統看護学講座 成人看護学1～11」（病態治療学I～IVの教科書） 「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子他編、医学書院 「手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント」MCメディカ出版 「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術」大塚眞理子編著 医歯薬出版 「利用者の思いを映すケアプランの事例集」福富雅城 編著 中央法規										
備考	担当者 専任教員：桑田恵美子、菅原尚美、他1名 非常勤講師：望月律子、他1名										

新

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	精神看護学実習					単位 認定者	長橋 美榮子 阿部 幹佳		評価の 方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	集中	単位数	2 単位	実習			
				授業時間数	80 時間						
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象者の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。また、かかわりを通して自己理解を深め洞察できる能力を養う。対象者とのかかわりの中で精神障害者が社会の中でどのように受け入れられているのかを学習する。										
学修者への 期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。										
授業計画											
I. 実習期間：平成30年5月7日～11月9日までの間の2週間											
II. 実習場所：病院：宮城県精神医療センター・東北会病院・せんだんホスピタルのいずれか1施設 地域：障害福祉サービス事業所・障害者小規模地域活動センターのいずれか1施設（1日）											
III. 実習目的：精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者とかかわりを通してこころを病むということを理解し、対象の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。											
IV. 実習目標： 1 対象者とかかわりの中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる。 2 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深める。 3 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる。 4 自己理解と他者理解を通して、ケアリングについての自分の考えを持つことができる。 5 こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解する。											
V. 実習計画 1 一人の患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する。 2 患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考察することができる。 3 対象者の地域での生活を理解し、必要な保健・福祉・医療チームとの連携を学ぶ。											
VI. 成績評価：実習目標の達成度により評価する。詳細は実習要項参照											
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と看護の基本」出口禎子編、MCメディア出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践」出口禎子編、MCメディア出版										
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研										
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者 専任教員：長橋美榮子、阿部幹佳、二口尚美 非常勤講師：煤孫久子										

旧

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	精神看護学実習					単位 認定者	長橋 美榮子 阿部 幹佳		評価の 方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	集中	単位数	2 単位	実習			
				授業時間数	80 時間						
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象者の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。また、かかわりを通して自己理解を深め洞察できる能力を養う。対象者とかかわりの中で精神障害者が社会の中でどのように受け入れられているのかを学習する。										
学修者への 期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。										
授業計画											
I. 実習期間：平成30年5月7日～11月9日までの間の2週間											
II. 実習場所：病院：宮城県精神医療センター・東北会病院・せんだんホスピタルのいずれか1施設 地域：障害福祉サービス事業所・障害者小規模地域活動センターのいずれか1施設（1日）											
III. 実習目的：精神科病院や精神保健福祉サービスを利用する対象者とかかわりを通してこころを病むということを理解し、対象の抱える問題を共有する中で必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける。											
IV. 実習目標： 1 対象者とかかわりの中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる。 2 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深める。 3 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる。 4 自己理解と他者理解を通して、ケアリングについての自分の考えを持つことができる。 5 こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解する。											
V. 実習計画 1 一人の患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する。 2 患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考察することができる。 3 対象者の地域での生活を理解し、必要な保健・福祉・医療チームとの連携を学ぶ。											
VI. 成績評価：実習目標の達成度により評価する。詳細は実習要項参照											
教科書	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と看護の基本」出口禎子編、MCメディア出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践」出口禎子編、MCメディア出版										
参考文献	「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研										
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者 専任教員：長橋美榮子、阿部幹佳 非常勤講師：煤孫久子										

新										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	統合演習				単位 認定者	阿部 春美		評価の 方法	試験 (レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
					授業時間数	60 時間				
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	「統合実習」の前には、本学科での学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに行えるよう必要な知識・技術を学ぶ。 「統合実習」の後には、「統合実習」の学びを通じて自己の看護実践能力(知・技・心)を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。									
到達目標	1. 統合実習に必要な知識・技術が習得できる。 2. ロールプレイやシミュレーション演習により、看護実践に役立つ知識・技術を習得できる。 3. 看護技術の卒業時到達度達成への課題を明らかにして、統合実習に臨む事ができる。 4. 自己の看護実践能力を(知・技・心)を評価し、専門職としての自己の課題が明確にできる。									
学修者への 期待等	統合演習・実習の目標を理解し、実習に臨むためにはどんな準備が必要なのか、それはどのような学習で確保できるのかを認識して、積極的に学習する姿勢で臨んで欲しい。									
回	授業計画				準備学習			担当		
1	統合演習ガイダンス				統合演習・実習要項を読み、持参すること			阿部 春美		
2	【講義】統合演習・実習のキーワードについて							阿部 春美		
3	【講義】入院時病歴聴取				事例2の入院時病歴(データベース)作成			阿部 春美		
4	紙上事例における看護過程の展開①(情報の分析・アセスメント)				既習の看護過程展開技術、紙上事例の治療・看護について、復習して臨む。 演習後、看護過程展開課題を作成する			阿部 春美		
5	紙上事例における看護過程の展開②(看護問題の明確化)							阿部 春美		
6	紙上事例における看護過程の展開③(看護計画)							阿部 春美		
7	【講義】複数患者の受け持ちを想定した業務計画、申し送り							阿部 春美		
8	複数患者の受け持ちを想定した業務計画の立案							阿部 春美他 演習担当教員		
9	申し送り(情報の引継ぎ)記録の作成							阿部 春美他 演習担当教員		
10	申し送り(情報の引継ぎ)の実施				申し送り演習後の振り返り(1時間)			阿部 春美他 演習担当教員		
11	【講義】継続看護				在宅看護論の学習内容を復習して臨む			阿部 春美		
12	【講義】看護サマリー				在宅看護論の学習内容を復習して臨む			阿部 春美		
13	紙上事例における退院を想定した看護サマリー作成				紙上事例事例の看護サマリーを完成			阿部 春美他 演習担当教員		
14	【講義】多重課題				事前課題: 3事例の病態・治療・看護について復習して望む			阿部 春美		
15	紙上事例における多重課題(割り込み業務)の対応 ①各患者に必要な対応							阿部 春美他 演習担当教員		

旧										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	統合演習				単位 認定者	阿部 春美		評価の 方法	試験 (レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
					授業時間数	60 時間				
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	「統合実習」の前には、本学科での学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに行えるよう必要な知識・技術を学ぶ。 「統合実習」の後には、「統合実習」の学びを通じて自己の看護実践能力(知・技・心)を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。									
到達目標	1. 統合実習に必要な知識・技術が習得できる。 2. ロールプレイやシミュレーション演習により、看護実践に役立つ知識・技術を習得できる。 3. 看護技術の卒業時到達度達成への課題を明らかにして、統合実習に臨む事ができる。 4. 自己の看護実践能力を(知・技・心)を評価し、専門職としての自己の課題が明確にできる。									
学修者への 期待等	統合演習・実習の目標を理解し、実習に臨むためにはどんな準備が必要なのか、それはどのような学習で確保できるのかを認識して、積極的に学習する姿勢で臨んで欲しい。									
回	授業計画				準備学習			担当		
1	統合演習ガイダンス				統合演習・実習要項を読み、持参すること			阿部 春美		
2	【講義】統合演習・実習のキーワードについて							阿部 春美		
3	【講義】入院時病歴聴取				事例2の入院時病歴(データベース)作成			阿部 春美		
4	紙上事例における看護過程の展開①(情報の分析・アセスメント)				既習の看護過程展開技術、紙上事例の治療・看護について、復習して臨む。 演習後、看護過程展開課題を作成する			阿部 春美		
5	紙上事例における看護過程の展開②(看護問題の明確化)							阿部 春美		
6	紙上事例における看護過程の展開③(看護計画)							阿部 春美		
7	【講義】複数患者の受け持ちを想定した業務計画、申し送り							阿部 春美		
8	複数患者の受け持ちを想定した業務計画の立案							阿部 春美他 演習担当教員		
9	申し送り(情報の引継ぎ)記録の作成							阿部 春美他 演習担当教員		
10	申し送り(情報の引継ぎ)の実施				申し送り演習後の振り返り(1時間)			阿部 春美他 演習担当教員		
11	【講義】継続看護				在宅看護論の学習内容を復習して臨む			阿部 春美		
12	【講義】看護サマリー				在宅看護論の学習内容を復習して臨む			阿部 春美		
13	紙上事例における退院を想定した看護サマリー作成				紙上事例事例の看護サマリーを完成			阿部 春美他 演習担当教員		
14	【講義】多重課題				事前課題: 3事例の病態・治療・看護について復習して望む			阿部 春美		
15	紙上事例における多重課題(割り込み業務)の対応 ①各患者に必要な対応							阿部 春美他 演習担当教員		

回	授業計画	準備学習	
16	紙上事例における多重課題（割り込み業務）の対応 ②優先順位の決定と適切な援助	多重課題演習の振り返り（1時間）	阿部 春美他 演習担当教員
17	【講義】病院における災害対策の実際	2年次の災害看護のテキスト・資料を復習 してこること（1時間）	阿部 春美
18	実習前演習の学びの整理		阿部 春美
19	看護技術演習①（領域実習後の課題項目）		阿部 春美他 演習担当教員
20	看護技術演習②（統合実習に必要な技術項目）		阿部 春美他 演習担当教員
21	統合演習（実習前）のまとめ	実習前演習課題レポートの提出（2時間）	阿部 春美
22	卒業時の看護技術到達度の評価と自己課題の明確化		阿部 春美
23	概念化シートを用いた3年間の振り返り 「個人での記述」		阿部 春美他 演習担当教員
24	概念化シートを用いた3年間の振り返り 「ナラティブ（語り合い）」		阿部 春美他 演習担当教員
25	最終課題レポート作成準備 「臨地実習の体験を通して看護を考える」	23回24回の振り返りを基に、レポート作成	阿部 春美他 演習担当教員
26	看護技術演習③ （状況設定演習：状況のアセスメント）	事前課題について、復習し、レポートにま とめて持参する（3時間）	阿部 春美他 演習担当教員
27	看護技術演習④（状況設定演習：初期対応）	状況設定演習の振り返り（1時間）	阿部 春美他 演習担当教員
28	看護技術演習⑤（統合実習後の自己課題項目）	演習する技術の目的・注意事項を復習して 参加する（2時間）	阿部 春美他 演習担当教員
29	看護技術演習⑥ （卒業時の看護技術到達度における課題項目）		阿部 春美他 演習担当教員
30	統合演習（実習後）のまとめ	課題レポートの提出（3時間）	阿部 春美
教科書	既習科目のテキストおよび参考書 統合演習要項は、4月の統合実習のガイダンス時配布する		
参考文献	随時配布する。		
備考	演習担当教員：長橋美榮子、高橋由美、阿部春美、武田美奈子、阿部幹佳、二口尚美、佐藤理恵、岡崎優子、 菅原尚美、竹田理恵、須藤千寿美、黒木雅美、山本和江、岡崎草代夏、小倉真紀、松田郷子、大石慶子		

回	授業計画	準備学習	
16	紙上事例における多重課題（割り込み業務）の対応 ②優先順位の決定と適切な援助	多重課題演習の振り返り（1時間）	阿部 春美他 演習担当教員
17	【講義】病院における災害対策の実際	2年次の災害看護のテキスト・資料を復習 してこること（1時間）	阿部 春美
18	実習前演習の学びの整理		阿部 春美
19	看護技術演習①（領域実習後の課題項目）		阿部 春美他 演習担当教員
20	看護技術演習②（統合実習に必要な技術項目）		阿部 春美他 演習担当教員
21	統合演習（実習前）のまとめ	実習前演習課題レポートの提出（2時間）	阿部 春美
22	卒業時の看護技術到達度の評価と自己課題の明確化		阿部 春美
23	概念化シートを用いた3年間の振り返り 「個人での記述」		阿部 春美他 演習担当教員
24	概念化シートを用いた3年間の振り返り 「ナラティブ（語り合い）」		阿部 春美他 演習担当教員
25	最終課題レポート作成準備 「臨地実習の体験を通して看護を考える」	23回24回の振り返りを基に、レポート作成	阿部 春美他 演習担当教員
26	看護技術演習③ （状況設定演習：状況のアセスメント）	事前課題について、復習し、レポートにま とめて持参する（3時間）	阿部 春美他 演習担当教員
27	看護技術演習④（状況設定演習：初期対応）	状況設定演習の振り返り（1時間）	阿部 春美他 演習担当教員
28	看護技術演習⑤（統合実習後の自己課題項目）	演習する技術の目的・注意事項を復習して 参加する（2時間）	阿部 春美他 演習担当教員
29	看護技術演習⑥ （卒業時の看護技術到達度における課題項目）		阿部 春美他 演習担当教員
30	統合演習（実習後）のまとめ	課題レポートの提出（3時間）	阿部 春美
教科書	既習科目のテキストおよび参考書 統合演習要項は、4月の統合実習のガイダンス時配布する		
参考文献	随時配布する。		
備考	演習担当教員：桑田恵美子、長橋美榮子、門間京子、伊藤てる子、高橋由美、阿部春美、武田美奈子、佐藤理 恵、岡崎優子、菅原尚美、竹田理恵、須藤千寿美、伊藤茉莉子、岡崎草代夏、小倉真紀		

新											
学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	統合実習					単位 認定者	阿部 春美			実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の 方法			
							授業時間数		120 時間		
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	1年次の課題探究ゼミナールⅠ、2年次の課題探究ゼミナールⅡで学習した「課題解決力やクリティカルシンキング」を土台として、学生が自ら学ぶ姿勢を養う。 3年間で履修した知識や技術を統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるように臨床の実務に近い環境で看護を提供する方法を学ぶ。 保健医療福祉チームの一員として、実際に適応するための基礎的知識・技術・態度を養う。 具体的には、成人・老年の実習病棟の看護チームの一員として、チームリーダーやメンバー役割、複数受け持ち、リスクマネジメントなどの看護実践に必要な知識及び技術を習得する。										
学修者への期待等	本学3年間の学びの総まとめの実習であることを自覚し、良く調べ、準備し、自立した態度で実習に臨むこと。										
授業計画											
<p>I. 実習期間：平成30年11月30日～12月20日の期間集中して行う。</p> <p>II. 実習場所：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、JCHO仙台病院、坂総合病院</p> <p>III. 実習目的：保健・医療・福祉チームにおける看護職能の役割を認識し、看護マネジメント能力を養い、3年間で学習した看護の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解できる。 2. 複数患者を受け持つことを通して、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理を適切に行い、責任を持って受け持ち患者への看護過程を展開できる。 3. 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップを理解しチームの一員として責任ある行動を学ぶ。 4. 看護部や実習病棟における看護管理の実際を学ぶ。 5. 災害時や医療事故の際の対応などを通し医療現場における危機管理について学ぶ。 6. 日常生活援助技術や診療の補助技術を安全性・正確性・安楽性を考慮して実施できる。 7. 自己の看護技術の課題を明らかにし、技術の向上を図ることができる。 8. これまでの学習を振り返り、自己の看護観を深めることができる。 9. 看護倫理に則った看護、看護の探究、社会人としての態度など看護師としての自己評価を行い、生涯にわたり学び続けることの重要性を認識することができる。 <p>V. 実習方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4月・11月にオリエンテーションを行う。 2. 学生5～6名で班を形成し、教員1名が担当する。 3. 臨地での実習指導は実習施設の実習指導者と担当教員が担当。 4. 看護チームの中に入り、チームメンバーとして複数の患者を受け持ち指導者の指導のもと看護を行う。 5. 看護チームの計画を反映させた看護実践を行う。 6. カンファレンスを適宜行い、実習体験を帰納・演繹的に整理する。 7. 統合実習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・統合実習に関するキーワードの整理、K J法による学びの統合・発表 ・自己の看護観の整理 ・実習記録類、課題レポートの提出 											
教科書	既習科目のテキスト、参考書										
参考文献	随時紹介する。										
備考	担当者 専任教員15名 非常勤講師：松田郷子、大石慶子										

旧											
学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●	●	●	●						
科目名	統合実習					単位 認定者	阿部 春美			実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の 方法			
							授業時間数		120 時間		
				授業形態	実習	授業回数	- 回				
授業の概要	1年次の課題探究ゼミナールⅠ、2年次の課題探究ゼミナールⅡで学習した「課題解決力やクリティカルシンキング」を土台として、学生が自ら学ぶ姿勢を養う。 3年間で履修した知識や技術を統合し、卒業後、臨床現場にスムーズに適応できるように臨床の実務に近い環境で看護を提供する方法を学ぶ。 保健医療福祉チームの一員として、実際に適応するための基礎的知識・技術・態度を養う。 具体的には、成人・老年の実習病棟の看護チームの一員として、チームリーダーやメンバー役割、複数受け持ち、リスクマネジメントなどの看護実践に必要な知識及び技術を習得する。										
学修者への期待等	本学3年間の学びの総まとめの実習であることを自覚し、良く調べ、準備し、自立した態度で実習に臨むこと。										
授業計画											
<p>I. 実習期間：平成30年11月30日～12月20日の期間集中して行う。</p> <p>II. 実習場所：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、JCHO仙台病院、坂総合病院</p> <p>III. 実習目的：保健・医療・福祉チームにおける看護職能の役割を認識し、看護マネジメント能力を養い、3年間で学習した看護の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解できる。 2. 複数患者を受け持つことを通して、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理を適切に行い、責任を持って受け持ち患者への看護過程を展開できる。 3. 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップを理解しチームの一員として責任ある行動を学ぶ。 4. 看護部や実習病棟における看護管理の実際を学ぶ。 5. 災害時や医療事故の際の対応などを通し医療現場における危機管理について学ぶ。 6. 日常生活援助技術や診療の補助技術を安全性・正確性・安楽性を考慮して実施できる。 7. 自己の看護技術の課題を明らかにし、技術の向上を図ることができる。 8. これまでの学習を振り返り、自己の看護観を深めることができる。 9. 看護倫理に則った看護、看護の探究、社会人としての態度など看護師としての自己評価を行い、生涯にわたり学び続けることの重要性を認識することができる。 <p>V. 実習方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4月・11月にオリエンテーションを行う。 2. 学生5～6名で班を形成し、教員1名が担当する。 3. 臨地での実習指導は実習施設の実習指導者と担当教員が担当。 4. 看護チームの中に入り、チームメンバーとして複数の患者を受け持ち指導者の指導のもと看護を行う。 5. 看護チームの計画を反映させた看護実践を行う。 6. カンファレンスを適宜行い、実習体験を帰納・演繹的に整理する。 7. 統合実習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・統合実習に関するキーワードの整理、K J法による学びの統合・発表 ・自己の看護観の整理 ・実習記録類、課題レポートの提出 											
教科書	既習科目のテキスト、参考書										
参考文献	随時紹介する。										
備考	担当者 専任教員13名 非常勤講師：松田郷子、他2名										